

大学の世界展開力強化事業(2023年度選定) 筑波大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2023年度)
インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材の育成

【交流推進事業の概要】

インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材の育成

スポーツ×障害科学

ポップカルチャー融合

スマートモビリティ

宇宙開発

スマートマテリアル

スマート医療・介護

スマート農業

平和学

地球規模課題

スマートエネルギー

スマートレジリエンス

「インクルーシブ」な「スマートソサエティー」をキーワードとして、筑波大学・オハイオ州立大学の学生があらゆる分野から参画し、協業して社会を変える革新アイデアを提案、つくば市・コロバス市・民間企業を巻き込んで社会実装、ボトムアップの地球規模課題解決のための国際スタートアップ人材育成

筑波大学

つくば市

OSU

Columbus

✓ 養成する人材像：社会を変える革新アイデアを提案し、実現できる国際ソーシャルスタートアップ人材
OSU学生との協業を通して国際的視野を身につけ、事業を世界展開できる力を持った人材

✓ インクルーシブなスマートソサエティー (ISS) とは？
革新的なテクノロジーをもとに、多様な背景を持った人々が等しく主役となる社会

✓ 本プログラムの仕組み

- ISSオンライン共同基盤講義(全学共通科目：多様な分野から幅広い学生が参加)
- ISSサマーフェスティバル(インクルージョンをテーマとしたオンライン体育芸術テクノロジー祭)
- 国際新事業提案型ISS-PBL授業(意欲のある学生がグループワークで研鑽)
- 年度末成果発表会：行政・民間企業からの助言によるブラッシュアップ
- UT-OSUオンライン交流(成果発表会での優秀チームをOSUに派遣)
- 国際ソーシャルスタートアップ：外部資金を獲得し、提案を社会実装
- 起業実績を積み上げ、参加外部組織からの投資資金による自走フェーズを実現

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 6年目以降

オンライン共同基盤講義(多様な分野から幅広い学生が参加)

自走フェーズ

社会実装フェーズ

自走フェーズ

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 6年目以降

自走フェーズ

社会実装フェーズ

自走フェーズ

✓ パートナー大学：OSU(オハイオ州立大学)

- OSU×コロバス市でスマートシティプロジェクト実装実績
筑波大学(UT)×つくば市のスマートシティ構想と相補的
- UT-OSU幅広い分野での協力関係実績
(体育、障害科学、ポップカルチャー、防災など)
- 米国は「ソーシャルスタートアップ」また「インクルーシブ」の考え方の先進国

✓ 筑波大学の強みを活かしたプログラム

- 研究学園都市の総合知
- 体育・芸術・人文・理学・医学・工学の融合
→スマートソサエティー
- 日本人学生と外国人留学生在が協業できるプログラム
→国際化推進
- TGSW 筑波会議、Sport Complex for Tomorrowなどの取組との相乗効果

【交流プログラムの概要】

- ①知見を広め興味を持つ:まず「ISSオンライン共同基盤講義(全学共通科目)」では、ISSの基礎知識を学ぶとともに、オンラインポスター発表を通じて筑波大学(UT)およびオハイオ州立大学(OSU)の学生が交流する。また「ISSサマーフェスティバル」では、「インクルージョン」をテーマとした体育芸術祭で、音楽やpara esports大会等を通じてUTとOSUの学生が交流するほか、附属特別支援学校／つくば市の障がいのある児童・生徒がバーチャルでつながる催しを行う。そして、ISSに関連がある講義群等を「ISSサポートプログラム」と認定し、学生の主体的学びを促す。
- ②基礎知識を習得する:「ISS-PBL」では、①で刺激を受けた意欲のある学生が参加し、ソーシャルスタートアップ提案と社会実装のための導入授業を行うと同時に、UTとOSUの学生でグループワークを行ってソーシャルスタートアップ提案を作り上げる。つくば市／コロバス市や関連民間企業等が関わる最終報告会にて優秀提案グループを決定する。
- ③専門的知識スキルを習得する:ISS-PBL優秀提案グループの学生を「ISS派遣プログラム」で実渡航させ、提案内容についてOSUの学生とブラッシュアップしながら、国際ビジネスコンクール等に挑戦する。希望者は国際インターンシップに参加する。

【本事業で養成する人材像】

社会を変えるような革新アイデアをもって、ボトムアップによる地球規模課題解決を行うと同時に、多様な人々が共生できる社会の構築のために主導的な役割を担う人材、国際ソーシャルスタートアップ人材を育成することを目的とする。

【本事業の特徴】

- ・総合大学の強みを最大限に生かし、人文科学／社会科学／人間科学等、あらゆる学問分野を結集したプログラムである。
- ・スマートシティプロジェクトを実施しているつくば市、米国におけるフロントランナーであるコロバス市を巻き込む。
- ・欧州委員会が策定しているEntreCompに基づいたアントレプレナーシップ教育を実施する。
- ・中長期的な交流を促進するプログラム設計となっており、日本と米国の真の懸け橋となる人材を養成する。

【交流予定人数】

		2023	2024	2025	2026	2027
派遣	実際に渡航する学生	10	20	25	25	25
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	100	700	800	900	900
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	0	0	0	0
受入	実際に渡航する学生	0	10	15	15	15
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	100	300	300	300	300
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	50	100	150	150

1. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【筑波大学】

【事業の名称】(採択年度 2023年度)

インクルーシブなスマートソサエティーを創成する国際スタートアップ人材の育成

■ 交流プログラムの実施状況

本プログラムでは、「インクルーシブなスマートソサエティー(ISS)」をキーワードとして、筑波大学(UT)・オハイオ州立大学(OSU)の学生があらゆる分野から参画し、協業して社会を変える革新アイデアを提案し、つくば市・コロンバス市・民間企業を巻き込んで社会実装するまでをサポートし、ボトムアップによる地球規模課題解決と同時に、多様な人々が共生できる社会の構築のために主導的な役割を担う人材、国際ソーシャルスタートアップ人材を育成することを目的とする。2023年度は次年度開設科目の準備に向けて、採択直後の10月にUT-OSUコアメンバーによるキックオフミーティングをつくば市にて開催、3月にはUT教員と学生がOSUを訪問し、プログラム内容の打合せ、研究室訪問、施設見学、学生交流などを実施した。またパンフレットを作成し、学内広報に努めた。



〈3月OSU訪問時の打合せ〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

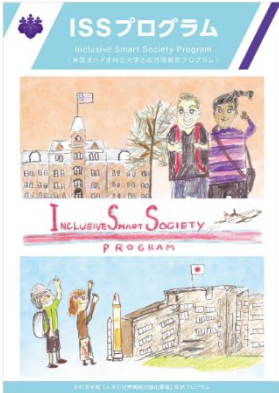
○ 日本人学生の派遣

OSUへの派遣11名(実渡航)
6名(オンライン交流)

○ 外国人留学生の受入

OSUからの受入 3名(実渡航)
12名(オンライン交流)

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	110	17
学生の受入	100	15



〈パンフレット表紙〉



〈3月OSU訪問時の学生交流〉

2023年度の交流実績は、実渡航では計画を上回ったものの、オンラインイベントの企画が間に合わなかったため、オンライン交流数が計画を達成できなかった。2024年度はサマーフェスティバル他オンラインイベントを企画しており、目標達成に向けて具体的な準備を進めている。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

UT-OSU共同開設のISS科目群について、UTではコンピテンスを適切に設定したうえで学内委員会の審査を経て全学共通科目の総合科目として開設が承認された。今後はプログラムメンバーだけでなく全学での教育改善サイクルの中で評価・検証・改善が進められていくこととなり、さらなるブラッシュアップが期待できる。OSUでも2024年度開講に向けて準備中、2025年度以降はGeneral Education科目として設定する計画となっており、多くの学生が受講できる環境を整えている。ISS-PBLは、これまで実施したCOIL科目と同等のオンライン共修科目として設計している。また双方の学年暦の相違も考慮したうえで開講時期を設定している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本プログラム専任のコーディネーターを配置することにより、従来の学内組織による支援に加えてさらに充実した支援体制を構築した。

OSU学生は「短期研修生」として適切な在籍管理のもとでプログラムに参加する。UTでの学修、日本での生活、諸手続き、注意事項について事前ガイダンスを行う。また渡日後は空港から大学キャンパス内への移動、学生宿舎への入居手続等の生活全般の支援を行うほか、必要に応じ日本人あるいはネイティブレベルの日本語運用能力を有する外国人学生をチューターとして配置し、キャンパス内での学修、生活のサポートを行う。

UT学生については、学内の情報共有及び危機管理体制の強化を目的として、海外へ渡航する学生には「海外渡航システム(TRIP)」の入力を義務付け、緊急時の安否確認等の必要措置をよりスムーズに講じる体制が確立している。さらに、海外旅行傷害保険の加入義務付け、万が一の事件・事故等が発生した場合のサポートサービスである海外安全危機管理サービス(OSSMA)への加入も強く推奨している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

○プログラムの構築・改善についてOSUと定期的にオンラインミーティングを行っている。教員の国際交流は従来から盛んであったが、教育分野の事務職員が定期的に海外協定校との打合せに参加することは少なかったため、日米の文化慣習の違いについて相互理解を深めつつ、同じ教育目標を持ってよりよいプログラムを構築しようという機運が醸成されている。

○本プログラムの情報公開・成果普及の一手段としてWebサイトを立ち上げた。

■ グッドプラクティス等

2024年5月に体育系分野でOSU学生7名、工学系分野でOSU学生13名を受け入れ、各分野で交流プログラムを実施した。とりわけ工学系分野では、2024年度秋学期科目開講に向け、試行的にJV-Campusを使用して渡日前から交流を開始、プログラム終了後にはデジタルバッジを発行するなど、JV-Campusの活用方法について検証を行った。



本プログラムwebサイト

(<https://inclusive-smart-society.edu.tsukuba.ac.jp/>)